

第6回トップマネジメントセミナー開催

第6回トップマネジメントセミナーを2月3日(月)日比谷図書文化館にて開催します。

今回のセミナーでは、成長分野に位置づけられた農業をどのようにしていくのか、農業者支援に関心の高い経営トップがどのように企業を存続・進化してきたのかを紹介し、そしてこの講演を受け、これからの農業者の更なる一歩について語り合います。

日時	平成26年2月3日(月)
会場	日比谷図書文化館 B1F 日比谷コンベンションホール(大ホール)
募集	150名(先着順)
第一部	14:00~15:20
講演1	「企業として存続していくために～社員の成長なくして、企業の成長なし～」 講師 萩田 伍氏 アパレル・ファッション株式会社 代表取締役会長兼 CEO
講演2	「レストランのサポーターとしてどのように進化してきたのか」 講師 久保 征一郎氏 株式会社ぐるなび 代表取締役社長
第二部	13:30~14:50
	パネルディスカッション 「これからの農業者が更なる一歩を進むためには、何が必要か」(仮題)
交流会	17:00~18:30
	(立食形式) 4F スタジオプラス(小ホール)

*詳細・お申込につきましては、以下の URL をご参照下さい↓
<http://www.j-pao.org/news/2013/0187/>

「商談会スキルアップセミナー」のご案内

アグリフード EXPO 大阪 2014 の出展者および関係者を対象に、商談会スキルアップセミナーを開催します。

日時	平成26年2月19日(水)
会場	ATC アジア太平洋トレードセンター O's 棟南6階 B1 会議室
募集	40名(先着順)
カリキュラム	17:15~18:30
	「商談会のスキルアップ策 ～バイヤーが農業者に求めるものとは～」 講師 佐藤琢二氏 株式会社キンレイ 外食事業カンパニー開発本部 商品部購買チーム チームマネージャー

*詳細・お申込につきましては、以下の URL をご参照下さい↓
<http://www.j-pao.org/news/seminar/2014/0197/>

専門部会の動き (12月分)

【人材育成①】

J-PAO で受託しているビジネススクールの来年度カリキュラムの検討を行いました。

受講生の参加意識を高めるための取組や方法等について幅広い意見が出され、来年度に向け、更に検討を進めることとしました。

今回は、異業種の企業が農業参入した事案について、問題・課題の洗い出しを行う予定です。

【事業化支援・販売支援③】

新たに相談のあった北海道産牛肉のブランド化について以下の検討を行いました。

①ターゲットセグメント選定→健康・美容に意識が高い人に集中。

②付加価値の創造→現商品の特徴整理、加工等の中間処理への進出。

③地場の製品とのコラボ→チーズやワインとのセット販売。

次回も、引き続き今回の案件を検討するとともに、他企業(牛肉)の販売支援についても検討を行います。

農業経営アドバイザー試験合格者決まる

1/17(金)に第18回農業経営アドバイザー面接試験を開催しました(日本政策金融公庫農林水産事業本部委託事業)。

面接試験の結果、255名が合格し、「日本政策金融公庫 農業経営アドバイザー試験合格証」が配布されました。(総数2675名)。

次回、第19回農業経営アドバイザー研修・試験は、平成26年6月の実施(募集開始は4月)を予定しています。

主な活動 (12/17~1/24)

- 12/20 大分県農業ビジネススクール
(農業経営支援センター、藤野運営会員)
- 1/14 とちぎ農業ビジネススクール(農業経営支援センター)
- 1/15 日本政策金融公庫福島支店交流会
(食料マネジメント部 福田氏)
- 1/15 第77回企画運営委員会
- 1/17 大分県農業ビジネススクール(農業経営支援センター)
- 1/17 第18回農業経営アドバイザー面接試験
- 1/20 宮崎銀行主催セミナー(高木理事長)
- 1/21 パソナ(株)アグリベンチャーコース(後藤)

往復書簡

今回は、安達氏（山形県 南安達農園）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡 2 回目です。

拝啓 高木 勇樹 様

年の瀬になり山形にはない群馬の冷たい風との戦いが始まりました。野菜の収穫も順調に進んでおります。

お返事ありがとうございます。これからますます寒くなりますので、お体には十二分にお気を付けください。

高木様がおっしゃるように、農業界だけでなく他業界でも親のあとを継ぐのがラッキーと感じる息子と、プレッシャーと感じる息子に分かれるのでしょうか。私は後者で、ラッキーと感じることはできなかったことを後悔しております。跡継ぎの問題は、私だけでなく、大小なく農業界ではあるものと考えております。

息子たちは新しい生産技術や経営を考え実行したいが、親からは「自分で経営した時にその考えを実行すれば良い。」と意見は平行線のままになることが多いのではないのでしょうか？農業は一経営者ですが、ここに親子という関係性が双方とも抜けないから起こりうることなのだと考えます。この上下関係が他人だったら違う結果が起きているのではないのでしょうか。自分が携わっている仕事に対し、お互い悪くしようと意見を出す人はいないと思います。親子だからこそ冷静に話せないのではないのでしょうか？

逆を言えば、思っていることを直接言い合える事が親子の良いところかもしれません。上下関係が他人であれば経営者にも申すのは大それたことと思う人もおります。親子だからこそ良い面や悪い面を思いっきりぶつけ合う機会が多いが、お互いに言い合ったことを実行できずに成長で

きない事が多いように思います。

親はどこまでも親、子はどこまでも子、高木様がおっしゃるように子供は親を選べないのですよね。この問題は家業を引き継いできた先輩たちも通ってきた道なのでしょうが、同じ問題の繰り返しのような感じがします。私自身はこれからどうすべきかを山形を離れ、群馬の地で感性を磨き、じっくり考え答えを導いていくつもりです。

敬具

平成二十五年十二月吉日

安達 勝夫 （あだち かつお）

一九七〇年 山形県東根市生まれ
一九九四年 日本大学農獣医学部農学科卒
一九九四年 南安達農園 就職・就農



拜復 安達 勝夫様

松もとれ、また忙しい一年が始まりますね。

私のような年令になると、新年を迎え思うことは、「昨年
も森羅万象に支えられ生かされた命なんだ、有難いことだ、
折角新しい年を迎えられた生かされている命を、心身健全に
努め精一杯使わせていただこう」ということです。

貴兄は新年を迎えどのような思いを抱かれたでしょうか。
お手紙を読んで、私がこれまで知り合った貴兄のような親
のあとを継ぐお立場の農業経営者、製造業、流通業などい
ろんな業種の方々の顔が次々と思ひ浮かびました。

経営規模の大小を問わず、共通していたのは「プレッシャ
ーと感している」ということです。

もちろん現在進行形の方も、過去形になった方もいろいろ
ですが、その対応に共通しているのは「組織」の一員と割り
切ることから「プレッシャー」対策の一步を始めていること
のように思いました。

私など公務員経験者は、民間企業とミッションの違いはあ
れ、「組織」の一員として、仕事は役割分担をしながらチー
ムで行います。

一般的にはチームのリーダーは、課長とか班長とか係長と
が仕事の軽重により異なりますが、責任ある立場の者がなり
ます。

チームのリーダーにその使命・役割を指示するのはそれよ
り上のポストの者です。リーダーは指示に従ってチームを指
揮し仕事を成し遂げるのです。

組織内で地位があがるということは、権限も増えますが、

責任はより一層大きなものとなります。リーダーの仕事振り

をみながら、キャリアを積んでいく過程では、「自分」の思
い、勝手はじつと腹の中に仕舞い、自らがそのポストになっ
たらそれを実行し、自らの力を試す。その繰り返しでキャリ
アを積むのです。

親をリーダーと考えればどの「組織」でも同じではないで
しょうか。

家業もそのように考え、対応してみると面白くなるのでは
ないでしょうか。貴兄の豊かな感性は必ず解決策をみつけ、
飛躍の年とすると確信しています。

平成二十六年一月吉日

敬具

高木 勇樹 (たかぎ ゆうき)

一九四三年 群馬県生まれ

一九六六年 東京大学法学部卒業後農林省入省。食品流通局砂糖
類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管
理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など
歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 ㈱農林中金総合研究所理事

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事などの立場から、わが国
農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

